

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】令和 3 年 12 月 2 日 (2021.12.2)

【公開番号】特開 2020-69089 (P2020-69089A)  
 【公開日】令和 2 年 5 月 7 日 (2020.5.7)  
 【年通号数】公開・登録公報 2020-018  
 【出願番号】特願 2018-205140 (P2018-205140)  
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 3 3 Z

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】  
 【提出日】令和 3 年 10 月 25 日 (2021.10.25)  
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

所定の設定操作に基づいて、遊技者にとって有利度が異なる複数種類の設定値のうちから、何れかの設定値に設定可能な設定手段を具備する遊技機であって、

始動口に遊技球が入球することに基づいて、当否判定を行う当否判定手段と、

前記当否判定の結果が大当たりになることに基づいて、大当たり遊技を実行する大当たり遊技実行手段と、

前記当否判定の結果が小当たりになることに基づいて、小当たり遊技を実行する小当たり遊技実行手段と、

前記当否判定の結果に関する演出を実行する演出手段と、  
 を具備し、

遊技状態として、少なくとも通常状態と、該通常状態よりも小当たり遊技が実行される頻度の高い有利な状態で行う有利状態とを備え、と共に、

前記当否判定の結果が大当たりとなる確率は前記設定値の種別に応じて異なる値に変更され、前記当否判定の結果が小当たりとなる確率は前記設定値の種別によらず一定であり、前記当否判定の結果が小当たりとなる確率は大当たりとなる確率及び外れとなる確率よりも高くされ、

前記演出手段は、前記有利状態で前記当否判定の結果が外れとなる場合に、前記当否判定の結果が大当たりとなる場合及び小当たりとなる場合とは異なる特別な演出を必ず実行することを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記当否判定の結果が所定の複数回数連続して、外れとならない場合において、前記設定値の種別を示唆する演出が実行されることを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 0 9  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】

## 【 0 0 0 9 】

請求項 1 に記載の遊技機は、

所定の設定操作に基づいて、遊技者にとって有利度が異なる複数種類の設定値のうちから、何れかの設定値に設定可能な設定手段を具備する遊技機であって、

始動口に遊技球が入球することに基づいて、当否判定を行う当否判定手段と、

前記当否判定の結果が大当りになることに基づいて、大当り遊技を実行する大当り遊技実行手段と、

前記当否判定の結果が小当りになることに基づいて、小当り遊技を実行する小当り遊技実行手段と、

前記当否判定の結果に関する演出を実行する演出手段と、

を具備し、

遊技状態として、少なくとも通常状態と、該通常状態よりも小当り遊技が実行される頻度の高い有利な状態で行う有利状態とを備えると共に、

前記当否判定の結果が大当りとなる確率は前記設定値の種別に応じて異なる値に変更され、前記当否判定の結果が小当りとなる確率は前記設定値の種別によらず一定であり、前記当否判定の結果が小当りとなる確率は大当りとなる確率及び外れとなる確率よりも高くされ、

前記演出手段は、前記有利状態で前記当否判定の結果が外れとなる場合に、前記当否判定の結果が大当りとなる場合及び小当りとなる場合とは異なる特別な演出を必ず実行することを特徴とする。

## 【 手続補正 3 】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【 0 0 1 2 】

ここで、本発明の遊技機は、当否判定の結果が小当りとなる確率が小当りとなる確率及び外れとなる確率よりも高くされれば、そのタイプ（遊技機のタイプ）を特に問わない。例えば、（１）当否判定の結果が大当りとなる確率を高くした高確率状態において、小当りを頻繁に発生させる状態（以下、小当りラッシュ若しくは小当りラッシュ状態いう）を備える遊技機（所謂「小当りラッシュ機」）であってもよいし、（２）所謂「１種２種混合タイプの遊技機（後述する実施例２を参照）」等であってもよい。

また、本発明において始動口として、１種の始動口（１態様の特別図柄に対応する始動口）のみを備えてもよいし、２種の始動口（異なる態様の特別図柄に対応する始動口）を備えてもよい。

## 【 手続補正 4 】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】削除

【補正の内容】

## 【 手続補正 5 】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】削除

【補正の内容】

## 【 手続補正 6 】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】削除

【補正の内容】  
【手続補正 7】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 6  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 8】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 7  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 9】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 8  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 0】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 9  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 1】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 2 0  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 2】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 2 1  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 3】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 2 2  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 4】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 2 3  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 5】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 2 4  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 6】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 2 5  
【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 17】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 18】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0027

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 19】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

請求項2に記載の遊技機は、

請求項1に記載の遊技機において、

前記当否判定の結果が所定の複数回数連続して、外れとならない場合において、前記設定値の種別を示唆する演出が実行されることを特徴とする。

【手続補正 20】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

請求項2の発明によると、外れが所定回数続くことで設定示唆をするため、稀に設定が低設定でも外れを発生しない状況が生じてしまった場合に高設定と確信して、打ち続けてしまい遊技者に多大な損害を与えてしまうことを防ぐことが可能である。